

沈從文『辺城』翻訳に関する小島久代・ 沈竜朱の一問一答及び訳二種

小 島 久 代

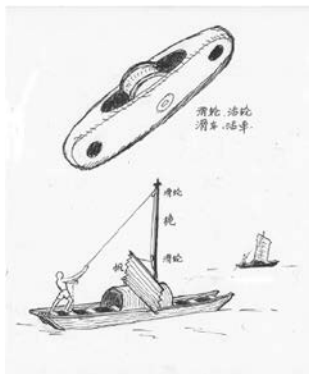
筆者は2013年に勉誠出版より『辺境から訪れる愛の物語』を上梓した。「辺城」は沈從文の代表作としてかつて異なる版に三度収録されているが、いずれも松枝茂夫訳である。松枝訳が名訳であるだけに、敢えて新訳に挑戦する者はいなかった。筆者は「湘行散記」、「辺城」を講読し、学生たちが興味を示したのに勇気づけられ、現代日本の若者にもぜひ沈從文の代表作を読んでもらいたいと願い、非力は重々承知しながらも、これに取り組んだ。

翻訳に当たり、松枝茂夫訳と城谷武男・角田篤信編著『沈從文「辺城」の評釈』には多くの訳語や言い回しを学ばせていただいた。だが、いざ自分で訳し始めると、様々な疑問が出てきた。それを解決すべく、沈從文のご長男の沈竜朱氏にメールを出してお教えを乞うた。理工系出身で画家を志したこともある沈竜朱氏は、すでに拙訳書にも一部掲載したように、たくさんのイラスト入りで懇切丁寧に説明して下さった。例えば「風車」については本誌第34号「交流」欄で紹介したし、沈從文研究者にも個別に紹介してはいるが、沈竜朱氏のご好意に報い、また、後の翻訳と研究に資するため、やはり公表した方がよいと考えた。今回27項目に絞り、質問・回答・小島訳（松枝訳）の順にならべて呈示する。②は『湘西散記』序（1982年2月『読書』第2期）に、『辺城』執筆の頃の情景が記されているが、「仿宋代小方卓」は「以前家にあった」と、精巧なイラスト付きで回答を得ることができた。この部分は吉首大学の沈從文研究者に訊ねたが判明せず、「沈竜朱氏に訊ねてみたら」との助言があり、直接お訊ねしたところ、イラスト付きで回答して下さい、ようやく疑問が氷解したので

あった。また、明海大学名誉教授の史有為先生にも数項目についてお教え頂いた。沈竜朱、沈虎雛（沈従文の次男。竜朱氏は弟と相談して回答して下さいました）ご兄弟の丁寧な回答には、沈従文の読者に対する熱心な対応振りを偲ばせるものがある。また元同僚の史有為先生も直ちに的確な回答を寄せて下さった。沈竜朱、沈虎雛ご兄弟、並びに史有為教授のご厚情に深く感謝する。依拠した原文は百花洲文庫版（1981）『辺城』であるが、入手しにくいので、『沈従文全集』版の頁数を記している。百花洲文庫版のみの時はその頁数を記した。松枝茂夫訳は『辺城』初版本（生活書店 1934）を基にしている。

① p.68 “檀木活车”的“活车”是什么？

沈回答：我理解即“滑轮”或者叫“滑车”，因为要承受缆绳的拉力，所以用结实的“檀木”制造，例如在帆船用在起帆时，用滑轮就可以省力。（见图）



訳：紫檀の木で作った滑車（栴檀の滑車）

② p.69 “常有穿青羽缎马褂的船主与毛手毛脚的水手进出”里的“毛手毛脚”和“羽缎”的意思，向您请教。

沈回答：“羽缎”是一种毛织品，也叫做“羽毛缎”或者“哔叽”。“毛手毛脚”不是说手脚都长着毛，而是指处事上“粗犷”，“大大咧咧”，是与穿着整齐，比较斯文的船主对比而言。

訳：黒いサージの短い上着を着た船主と粗野な水夫（黒緞の馬褂【一種の羽緞】を着た親方と毛むくじらの手足をした水夫）

③ p.70 “全个身心为那点爱憎所浸透，见寒作热，忘了一切。”的“见寒作热”的意思。

沈回答：我理解有着“不顾一切”的意思。

訳：身も心もすっかり愛憎が浸みわたって、頭に血が上り一切を忘れてしまう。（身も心もそうした愛憎に浸透せられて、寒暖のけじめさえつかぬまでに）

④ p.87 “但人太乖巧，祖父有点愀然不乐了”的“乖巧”的意思请教。

沈回答：就是“太聪明懂事了”的意思。

訳：翠翠があまりに賢く聞き分けがいいので、祖父はいささか心配になった。（だが持ち前のつむじ曲がりから、祖父は少しおもしろくないふさいだようなようすだった。）

⑤ p.90 “起眼动眉毛，机灵懂事”的“起眼动眉毛”是什么样的表情？

史有为回答：应该和“机灵懂事”一起描写她的。“起眼动眉毛”是“机灵”和“乖”（应该是乖巧的意思）的具体表现，也是“使人怜爱”的原因之一。

訳：眉を動かし眼をくるくるさせて、機転が利いて物分かりがよく（眼をつり眉毛を動かし、とっさの機転が利いて）

⑥ p.95（百花洲文庫版p.42）“绔子是那种翻紫的葱绿布做的，（滚了一道花边）”

沈回答：实际上就是“泛紫”，也就是葱绿中含有紫色的成分，有的版本已经改做“泛紫”。

訳：ズボンに紫がかかった萌黄色の綿布で作られ（ズボンに紫色に変色した浅黄色の木綿製であった。）

⑦ p.95 “发现了女孩子手上还带着有一副麻花绞的银子镯，闪着白白的亮光，心中有点儿钦羡”

沈回答：描写形状，也就是银丝绞扭成中国小吃的麻花的纹样（见图）



麻花的形状



麻花绞

訳：ツイスト模様の銀のブレスレットを腕にはめ（胡麻の花の金属のついた銀の腕輪をはめていた）

⑧ p.95 “妇人从身上摸出一把铜子，塞到翠翠手中，就走了。”



沈回答：是指用手掌能够抓握住的“一把”同样可以说“一把花生米”、“一把葵花籽”。

訳：婦人は

ひと握りの銅銭を取り出し（婦人はふところから銅銭一枚取り出し）

⑨ p.95 “请水手喝他新买的白烧酒”这里的“白”是纯粹的，没有掺水等的意思吗？

沈回答：中国有些地方酒酿叫白酒，大多数说白酒就是烧酒，没有是否纯粹的问题。

訳：買ったばかりの焼酎を勧めている（買ったばかりの白焼酎をすすめている）

⑩ p.93 “爷爷，你为人那么硬算什么？又不是要你去犁口耕田！”的“犁口”

沈回答：耕田用犁，在破土的那个犁尖锋利边缘（即犁口），一般镶有质地更硬的淬火钢材。这里是开玩笑性质的说老人的性格上。

訳：お前さんに犁の刃になって田んぼを耕せと言ってるんじゃないのだよ

（まさかお前さんを引っぱって行って牛の代わりに田を耕させようってわけでもないのに）

⑪ p.102 “翠翠，你不记得前年在
大河边时，有个人要让大鱼咬你
吗？”这里的“大河”是不是固有
名词？

沈回答：在当地相对于老船夫负责摆渡的支流小河，城边的那个西水的主流就被当地人叫“大河”。

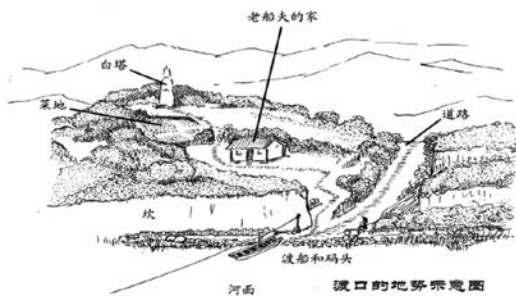


右图是沈从文画的。下边是大河；右侧斜向是小河和渡口。

訳：お前おとし大河のほとりで、大きな魚に喰いつかれるぞといった人を憶えていないかい？（お前いつか大河のふちに立っていたとき、大きな魚に呑みこまれるぞといった人があったのをおぼえていないかえ？）

⑫ p.102 “过渡的人在门外坎下叫唤着”里的“坎”指的什么地方？

沈回答：前文中有“岩坎”一同，是指老船夫家的房子距河边码头处还隔有一段一定“高度差”的石头“坎”，过渡的人已



经在码头边叫喊，所以说“在门外坎下”。

訳：渡し船に乗る客が門の外の台地の下で呼んでいるが、（渡し船客が家の
閤のそとから呼んでいた）

⑬ p.104 “凡碾坊照例是属于当地小财主的产业。”这里的“碾坊”是不是用水力为动力？“产业”是不是“财产”的意思？

沈回答：碾坊是以水力为动力的。“产业”是财产中的能够再生产的那一部分。例如：土地、可出租或出售的房屋、工厂等。财产中存款、珠宝首饰就不能算产业。

訳：だいたい水車小屋は普通はその土地の員外や金持ちの不動産だった。（だいたい米搗き小屋は原則として土地の小金持ちのやることであった）

⑭ p.106 “到了一半，已有两只船占先了些，再过一会儿，那两只船中间便又有一只超过了并进的船只而前”在这场面上是不是三只船比赛？

沈回答：从这段文字前半段所说的情况看，参加比赛的船是四只以上，在比赛开始后，先是四只船“相去不远”；到赛程一半时，两只船“占先了些”，最后才在那两只船中决出胜者。

訳：半ばまでくるとすでに二艘がわずかながら前にでて、さらにしばらくすると、その二艘のなかで一艘が並走している船を振り切ってぐんぐん前に出た

（半分ほどのところで、二艘が少し先になり、しばらくすると、その二艘の間から別の一艘が、並行して進んでいる船をぐんぐん抜いて）

⑮ p.109 “水坝管着一缳水，急溜溜的，抽水闸板时水车转的如陀螺”的具体情况向您请教。

沈回答：这里是说为了利用河水推动水车，在河面上拦起一道水坝，提高水位，那个水坝控制（管着）一缳水，急溜溜的流向那个水道。

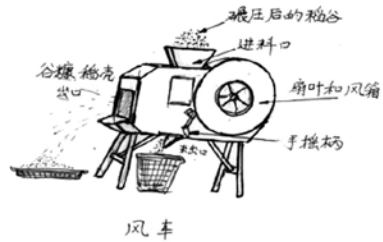
訳：堰堤は細い流れを溜めておいて、一気に水門の板を抜くと水車はコマのように回るんじゃよ（堰には水がどんどん流れ



ておってな、堰を切ると水車が独楽
みてえに廻るんじゃ)

⑩ p.109 “包工就是七百吊大制钱，还
不管风车，不管家私！”这里的“风车”
是不是应该水车？

沈回答：风车一般是指一种木制的，
用以分离碾压后的米和谷糠、杂草碎
屑的。



訳：仕事は請負だけで大銭で七百貫文だそう。唐箕は勘定にいれずによ
(工事賃だけで七百貫文から払わっしゃったちゅうからの、それも水車は勘定
にいれずによ)

⑪ p.114 “有时却只放下一些用火烧焦的锅巴，乘那东西还烧着时便抛进罐里去”
这里的“锅巴”是不是一般的“锅巴”，能吃的？

沈回答：是的。

訳：時にはただ火で焼いたおこげをまだ熱いうちに甕の中に入れた（またと
きどき真っ赤に火に焼けた鍋の手をおろして、それがまだ焼けているうちに甕
のなかに投げ込んだ）

⑫ p.115 “也因了一堆接连来的日子，人事上把那安静空气完全打破了”这里的
“人事上”的意思指的是不是婚姻或求婚？

沈回答：总体上说可以认为是与翠翠未来生活关连的事。

訳：この一家の静かで平凡な生活も、続いてやってきた求婚のために、そ
の静かな空気は完全に打ち破られてしまった（この一家の静かな平凡な生活
も、つづいてやって来た日々のために、人事上その静かな空気をすっかり壊さ
れてしまった）

⑬ p.117 “弄不好，亲舅舅也必一是一二是二。”这里的“一是一二是二”的意思

沈回答：这和“亲兄弟，明算账”是一个意思。

訳：気が合わなければたとえ母方の伯父にでも必ずはっきりものを言い少し
もいい加減にしない（氣にくわなかったら、相手が血を分けた伯父であろうと
誰であろうと、必ず一は一、二は二であり）

⑭ p.123 “驾家中那只新油船下驶”这里的油船是名词还是涂了油的船的意思？

沈回答：我想：这里说的是运桐油的船。

訳：家のあの新しい油運搬船を操って下り（自家の新造の油船を宰領して下り）

⑲ p.133 “二老把头偏过一旁去作了苦笑”这里的“偏”的动作是不是把头背过去不正面看船夫，还是虽然正面看，但是把头斜过去？

沈回答：“偏”不是“背过去”，二老仅仅是扭一点脸，没有正对爷爷，不想让爷爷看到自己的苦笑，事实上爷爷还是看到了。

訳：二老はそっぽを向いて苦笑して（二老は頭を片方にかしげて苦笑し）

⑳ p.134 “我回来时和爹爹去说，为你向中寨人做媒，让你得到那座碾坊吧”这里的“你”是不是前面说的那人？还是“我爹爹”？

沈回答：“你”指的是和二老当时对话的那个脚夫。前面一句脚夫说的是：“……若这件事派给我，我要那座碾坊……”

訳：おれが帰ったらうちの親父にいて、お前のために中寨人との仲人になってもらって、あの水車小屋をお前のものにしてやるさ（おれが帰ったらうちの親父にいて、お前を中寨の者に仲立ちしてもらい、あの米搗き小屋をお前の物にさしてやらあな）

㉑ p.141 “又觅过屋后菜园地里摘取蒜苗泡在米汤里作酸蒜苗”。“米汤”是不是指煮粥时米粒上面的一些粘的部分？“泡在米汤里作酸蒜苗”究竟是作泡菜的意思？

沈回答：“米汤”有些地方在做米饭时，先用水将生米煮开一遍，再捞出未熟的米放在蒸笼里继续蒸熟。那第一遍煮米的水，就叫“米汤”。实际上翠翠用米汤做泡菜。

訳：また家の裏の畑から大蒜の芽を摘んできて、米湯（米を炊く時に沸騰したての汁は捨てるが、その汁）のなかに浸して酸蒜苗（ニンニクの芽の漬物）を作った（また家の裏手の野菜畑から蒜の苗を摘んできて、重湯に入れて酸蒜苗を作った）

㉒ p.142 “把预备带走的竹筒，同扣花褡裢搁到长几上”这里的“扣花”是不是“刺绣”的意思？“褡裢”是不是钱包？

沈回答：“褡裢”是刺绣的一种工艺，“褡裢”是一种可以前后搭在人肩膀上的布制多重口袋，既可以装钱，也可以装较小的物件。

訳：アプリケをした錢袋（天竺木綿の袋）



裕褌



裕褌の展开图

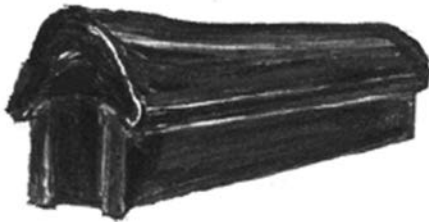
(用土布制作，两边有不同大小的口袋)

背着裕褌的行路人

②⑤ p.146 “带了副白木匣子”这里的“白木匣子”和第21章的“老船夫的白木棺材”不是一样东西吧？那么，是不是先把老船夫装在“白木匣子”，然后再装在“白木棺材”里头？

沈回答：“白木匣子”就是“白木棺材”。过去中国富人家，棺材是非常讲究的。除了使用好木材，作的十分厚；份量非常重；有特定的形式外（一头大，一头小），每年都要油漆一遍。出殡是需要很多人才抬得动的。这里的为爷爷准备的棺材，其实就是顺顺施舍，用几块薄木板拼起来的，显然无法讲究形状，而且，因为根本没有漆过，所以简陋到只能算是个“白木匣子”。

訳：白木の箱一組を載せて（白木のはこをのせて）



②⑥ p.112百花洲文庫版（《全集》P150）“在当时按照绿营军勇的装束，穿起绿盘云得胜褂，包青皱绸包头”的图案，向您请教。

沈回答：胸前背后有盘云图案的清朝军服。“青”是指“深蓝色”。



盘云图案



团云图案

訳：当時緑營軍の軍人の制服で、緑色の雲が渦巻き勝利を象徴する絵柄の上着。

②⑦ p.389（《全集》第16卷）《湘西散记序》里有一段：“我却将一个十八世纪仿宋代灯笼式红木小方桌搁在小院中，大清早就开始写我的《边城》”这里的小桌是什么样子？

沈回答：您可能知道过去中国灯笼有些是用木料做骨架，断面是六角或八角形的，在附件里我送上凭印象画个草图，也许能给您一个直观的形象。由于家具形制是宋朝式样，但父亲当年判断是18世纪仿制品，所以才有“18世纪仿宋”的说法。



灯笼



小方桌

訳：私は18世紀の宋代の提灯の形を模したマホガニーの小さな四角い机を小さい庭に置いて早朝から「辺城」を書き始めた。